

# 令和6年度園の教育・保育内容に関する評価結果

学校法人島田中央学園 認定こども園島田中央幼稚園

## 1 認定こども園島田中央幼稚園の教育保育

教育・保育目標 「元気に遊ぶ子」

重点目標 「自分で見つけ考えやってみよう」

具体的な姿 「○主体的に動く子 ○たかましい子 ○人、もの、コトとつながる子 ○気持ちの良い生活をする子  
○自分が好きな子」

## 2 保護者アンケートの結果と自己評価

評価基準

A・よく達成している B・達成している C・どちらともいえない D・あまり達成していない E・まったく達成していない

### A 評価及び B 評価を合わせた割合

No.	項目	質問内容	保護者(%)	職員(%)
1	教育保育目標	園は教育保育目標「元気にあそぶ子」や教育方針(主体性、意欲、夢中になる、あきらめない心、思いやり、協力や共同、自分が好きなど)を達成している。	99.5	100
		職員は和顔愛語の精神に従い、教育保育目標や教育方針を共有し、協力して保育に当たっている。	98.4	100
2	遊びを中心とした教育保育	子どもの発達段階や興味・関心に応じた遊びが行われている。	99.4	100
		自然を生かし、季節感のある豊かな体験を通じた遊びを進めている。	99.4	100
		子どもの目線に立って、子どもが遊びたくなるような環境を考え、夢中になって遊べる環境設定(遊具や教材の工夫、時間の補償など)をしている。	97.9	95.6
3	個を大切にされた教育保育	一人一人の特性やペースの違いを把握し、共感したり励ましたりして、子どもとの信頼関係をつくることで、子どもが安心して遊んだり生活したりできるようにしている。	98.3	100
		子ども一人一人に目を配り、声掛けをして、個々の子どもが自分の良さに気付き自信を持てるようにしている。	97.9	100
		特別な支援が必要な子どもに対して、一人一人の特性に配慮した支援、及び保護者や専門機関と連携しながらの支援を進めようとしている。	87.1	100
4	社会性の育成	子どもが友だちと思いを伝えあったり、話し合ったり、一緒に考えたり、一緒に作ったり、工夫したりする場面を大切にして協同性が育つようにしている。	95.1	100
		集団での遊びやその中でのトラブル場面などを大切にして、集団生活に必要なきまりや約束、また自己コントロールや仲間と折り合う方法等を学べるようにしている。	91.9	100
5	主体性の育成	子どもが自分で見つけ、自分で考え、工夫して生活したり遊んだりするように見守ったり、環境を工夫したりしている。	94.6	100
		うまくいかない場面でも、あきらめずにやり直したり、試行錯誤したりすることを大切にして、見守ったり励ましたりしている。	94.1	100
6	多様な交流・体験	小学校との円滑な接続を考え、幼小の職員の合同研修などをとおして小学校との積極的連携を進めている。	82.7	95.7
		島二中生との交流活動や餅つき、サツマイモ掘り、園近隣への散歩など、地域のさまざまな人や自然や事柄と触れ合うことを大切にしている。	97.3	91.3
7	健康・安全管理	室内環境・衛生面・感染症拡大防止などに気を配り、「保健だより」等で情報を伝えるなどして、健康管理について力を入れている。	95.7	95.6
		定期的に様々な状況を想定した避難訓練や安全点検を行うとともに、随時事故防止対策、安全教育等を行い、子どもの安全管理に努めている。	99.0	95.7
8	食育	安心安全で栄養バランスの取れた食事を提供するとともに、子どもにとって食事が楽しい時間になるように配慮している。	100	95.6
		食に関する指導や活動が、年齢に応じて適切に進められている。	94.1	95.6
9	保護者と連携	HP や園・クラスだより・シール帳・あゆみノートなどで、子どもの成長について適切に情報を伝えている。	96.8	100
		子どもの声や保護者から寄せられた相談や意見要望に、適切に、丁寧に対応している。	88.1	95.7
10	その他	1号園児を対象とした預かり保育の日数や時間、料金、保育内容などは、こども園として適切に設定されている。(1号の保護者のみご回答ください。)	75.2	81.3

### 3 考察

- ・ほとんどの項目に於いて、保護者アンケートと職員自己評価の回答結果にそれほど大きな開きはありませんでした。保護者の皆様には、お子さまの姿や各種お便り等を通して園の取り組みをご理解いただいているとともに、お子さまを真ん中にして皆様と職員とが同じ方向をめざして歩んでいるものと思えました。園の教育保育へのご理解とご協力で深く感謝申し上げます。
- ・保護者アンケート、職員の自己評価及び教育課程アンケートをもとに、令和6年度の取り組みの成果と課題、そして、令和7年度に力を入れたいことを、以下のように考えました。今後とも、ご理解とご協力をお願い致します。

項目	令和6年度の取り組みの成果と課題、令和7年度に力を入れたいこと
教育保育について	<p>○グランドデザインを整理し、本園でめざす「5つの具体的な姿」がどのような姿なのか、どのような場面で見られるのか等を、子どもの具体的な姿でイメージしたり、認定こども園教育・保育要領（内閣府・文科省・厚労省）や小学校教育との円滑な接続を図るための手掛かりとなる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」などと照らし合わせたりしながら明確にした上で、重点目標「じぶんから みつけ かんがえやってみよう」を決めました。</p> <p>そして、その重点目標を達成するためには、子どもたちが『～したい』という思いをもって積極的に行動する」「自己決定する」「自己表現する」ことが大切であり、そうできるように、全職員で環境を構成し、子どもたちに関わってきました。また、育っている姿をクラスだよりなどで伝えることにより、保護者の皆様にもご理解いただけるように努めてきました。その結果、子どもの中に、やりたい遊びを自分で見つけ遊び込む姿が見られたり、挨拶が自分から言える子が増えたりと、「主体性」を感じる場面が多く見られました。「主体性」はこれからも大いに求められる力です。今の子どもたちの主体性の伸びを継続して支えていきたいと思えます。</p> <p>○自己コントロールや自己制御については、子どもの中に苦手が伺える場面もありました。発達段階からいって当然ではありますが、幼児期はそれらの力の基礎を育てる大切な時期です。気持ちの切り替えや自分の気持ちや他者と折り合いをつけることが少しずつできるように育てていきたいと思えます。</p> <p>○学年末には、年齢や発達に応じた仲間との関わりが見られるようになりました。それは、仲間とたくさん遊びできたからです。また、職員の支援によって他者と関わる機会を得たり関わり方を学んだりしているからともいえます。今後も、子どもが大勢いる場である当園の強味を活かして、友達（人）の良さに気付いたり、思いを伝え合ったり、気持ちを理解しようとしたり、小さい子を思いやり大きい子に憧れたりする経験を多くさせていきたいと思えます。そうすることで、人とつながることの楽しさを味わわせ、他者への信頼の芽を育てていきたいと思えます。</p> <p>人とつながる際には、「言葉」が大事です。また、思考は言葉で行います。コロナ禍の中で生まれ育ってきた子どもたちであることも念頭に置きながら、子どもたちの「言葉」やコミュニケーションの力を育てていきたいと考えます。「困った」と言えることやアサーティブ（自分も大事・相手も大事）な言い方、挨拶などに気づかせていきたいと思えます。</p> <p>○子どもは一人一人、個性や特性が違い、個別の対応が求められることが少なくありません。担任もサポートする職員も、子ども一人一人への対応については、話し合ったり専門家を招いたりして研修を深め、より適切な関わり方を探りつつ支援しております。また、園全体がチームとして動いていくことが重要です。正規の職員もパートの職員も共通理解の上、園児の成長を支えています。また、保護者の皆様とも十分話し合っ、力を合わせてお子さまをお育てしたいと考えております。</p>
小学校との連携	<p>○子どもの育ちは卒園後も続いていきます。小学校への円滑な移行は極めて重要と考えます。そのため、当園では、卒園後の育ちや小学校教育を理解し、幼稚園と小学校との連携を推進するために、職員は近隣の小学校で終日研修をさせてもらっています。また、小中学校の先生方の研究会場を引き受け、幼児教育について発信するとともに小学校教育についての理解を深めています。黄組については小学校に円滑に進むことができるようアプローチカリキュラムを意識し実践しています。令和7年度も、職員は小学校教育について学び、子どもたちは小学校探検等をさせてもらう等して、幼小の連携を積極的に進めて参ります。なお、園外研修にも積極的に参加することで幼児教育や幼小の連携について専門性を高めています。</p>
行事について	<p>○行事においては気候の変化等で時期の見直しが必要なものもあります。また、日々の遊びを通じた地道な教育保育を最優先させるために、長く“当たり前”となってきた行事についても、子どもの育ちや体力、安全を考慮しつつ、「やめる・へらす・かえる」の視点からも見直しを図って参ります。</p>
健康・安全について	<p>○園内の安心安全は基本です。そのため、令和6年度には救急救命講習（3時間講習）をパートの職員も含め全職員で受講しました。また、園の安全マニュアルを見直し全職員で確認し、子どもの安全を最優先して保育に当たっております。</p> <p>感染症対応や災害時の対応についても各ご家庭に通知を配布し、ご協力をお願いしているところですが、大勢の園児が生活する場ですのでこれからもご理解とご協力をお願い致します。</p> <p>○「自分の心と体を大切にすること」を目的に、保健指導・性の指導・アプトレ（危ないトレーニング）・交通安全指導等を行っています。また、保護者様に対しても、駐車場にて指導員による交通指導を実施させていただきました。今後も、内容によっては外部の専門家の力も借りて、子どもも大人（保護者）も心身の安全について高い意識を持って生活できるようにしていきたいと思えます。</p> <p>○お子さまが発熱、嘔吐などで体調不良を起こした際には、ご家庭に連絡をさせていただいておりますが、長時間お迎えに來れない、判断が厳しすぎるなどのお声もあり、ご家庭への連絡タイミングについて悩むことがありました。働く保護者様をサポートしたいという思いは強くありますが、お子さまにとっては非常事態ですので、これからはお子さまの心と体のケアを優先したご対応をお願いしたいと思えます。</p>
その他	<p>○園でのお子さまの様子を知りたいというご意見もありがたく頂戴しました。クラスだよりやシール帳、個々だより、連絡帳、HP等で発信はしていますが、今後もご要望にお応えできるよう検討していきたいと思えますが、日々の地道な教育保育、生活のリズムは大切にしていきたいと考えます。また、大きな園であるため同時に大勢の方にお越しく事は、時期</p>

にもよりますが難しさもあります（感染症等）。その点はご理解くださいますようお願い致します。

○令和6年度は、さくらんぼ、ひまわり等、預かり保育では、各学年に担当の職員を配置しました。また、希望者の増加により、職員に予定の変更を依頼し増員して対応しました。年度末においては非常勤職員の協力を得て預かり保育を3日増やしました。令和7年度は、預かり担当職員を各学年複数名配置しました。預かり保育につきましては、今後も増やす努力はいたしますが、教材開発、教材作成、環境設定、子ども理解等々の職員の研修や保育準備の時間を削ったりすることは、保育教育の質を担保するためにも避けたいと思います。ご理解をお願い致します。

○お子さまの声や保護者様から寄せられたご相談やご意見ご要望には、丁寧に対応していきたいと思っております。ご遠慮なくお話しくださいますようお願い致します。話し合っ、手を取り合っ、より良い教育保育、子育てをめざしましょう。

#### 4 令和6年度学校評価委員会

##### (1) 経緯

ア 第1回 学校評価委員会 令和6年9月13日（金）

- ・「令和6年度 こども園の経営」について（説明）
- ・学校評価の実施の流れについて（説明）
- ・意見交換

イ 第2回 学校評価委員会 令和7年3月7日（金）

- ・「令和6年度の教育活動に対する保護者アンケート及び自己評価」について（報告）
- ・令和7年度の経営、取り組みについて（説明）
- ・協議「園の令和6年度の園の取組についての評価と令和7年度の取組の方向性について」

ウ 後日、評価委員より「令和6年度評価」について評価・感想を郵送にてお送りいただいた。

##### (2) 評価委員会の意見、感想

- ・相対的に評価の値が向上しているのは喜ばしいことだと思う。日々園児たちと向き合う先生方の努力の証が表れてきていると思う。
- ・保護者アンケートや評価委員の意見を見たり聞いたりしても、おおむね高評価であり、教育方針、細やかなプログラム設計、園の職員の姿勢や見えにくいところでの努力が評価されているものと思った。園として教育目標をしっかりと定め、具体的な実行項目設定と、そこに取り組む各先生方の意識の高さがうかがえて、ありがたかった。
- ・子ども一人一人それぞれにちゃんと目を向けてくれることが感じられ、安心した。先生方各人の高い意識と、発達段階に沿った根拠を持った取り組みが子どもたちにとっても安心感につながっていると思う。学級よりも先生たちが自分を振り返る大切な過程であり、自己研鑽していることも分かった。
- ・担任のみならず他の先生も子どもたちの名前を覚え、声を掛けている姿が素晴らしいと思う。この姿勢は今後も大事にしていてもらいたい。
- ・主体性、人とのかかわり、自己コントロール、どれも重要な資質（キーワード）だと思った。憧れという言葉も出てきていたが、それは、自分を動かす源になる思いだと言える。自己コントロールには、折り合いをつけると言う意味があると説明があったが、折り合いをつけることは、生きていくうえで大切なことだと思う。
- ・子どもたちが、挨拶ができているということは、周囲の大人、先生方が挨拶のシャワーを浴びせているから。しかも、笑顔つきの。今度は子どもたちの挨拶と笑顔で、大人が元気をもらおう、癒される、いい循環だ。
- ・優しくできることは、強さがある証だとも思う。子どもがクラスの子をほめる、認めるということが出来ることは、心が安定しているから、また、相手をよく見ているからだと思う。当たり前だと思わず、感心してあげたい。
- ・園には、自分の弱い部分を出せる雰囲気があり、出しても否定されない園になっていると思う。また、失敗からの気づきが大切にされていると思う。これは子どもたちとの関わりや保育にも大切なことだと思う。
- ・預かり保育に関しては園も難しい状況の中で対応を模索していることが分かるが、現状の社会情勢や保護者の就労等を考えると今後も継続して考えていく必要があるだろう。

#### 5 園から

保護者の皆様、評価委員の皆様、ありがとうございました。

高評価の部分については更に質を高め、改善すべき点については真摯に改善に取り組み、令和7年度も質の高い教育保育をめざして参ります。今後とも、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。